

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

NPO（市民団体）OSAKA ゆめネット

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

難波宮ふれあいクリーン大作戦

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	15 日（水）当会理事会 実施にむけての会議
8月	25 日（水）参加団体募集 企画 後援、共催依頼、難波宮史跡公園使用許可申請
9月	15 日（水）参加団体説明会 27 日（水）意見交換会、参加団体交流会 他 28 日（火）参加団体説明会 意見交換会
10月	広報 周知活動
11月	2 日（火）経過、広報活動説明会 準備 11 日（木）タイムテーブル 準備物 他 28 日（日）事業実施
12月	報告書作成 送付
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	清掃には 310 名が参加。環境意識の向上や参加者と地域の繋がりが広がった。午後からは、難波宮の歴史案内、樹木の調査を行った上プレート作りや音楽演奏等を行い、新しい枠組みの仲間作りと交流に寄与した。
今後の展望	清掃活動は、来年度から偶数月の第 4 日曜日に継続して行うことが決まり定着を目指す。また、大阪で活躍する多くの団体にこれからも参加を呼びかけ、地域住民と歴史ファンとの交流に寄与したい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 23 年 3 月 1 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

空堀子どもまちづくりの会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

空堀子どもまちづくり—絵本・紙芝居を用いたワークショップ—

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	
8月	絵本の制作
9月	広報活動
10月	ワークショップの実施、アートイベントへの出展
11月	
12月	展示会の開催
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	子どもを対象としたまちづくり教育で、近年求められているまちづくり学習教材を絵本という形で制作し、それを用いてワークショップを実施した。絵本を用いて実施することにより、昨年度に比べ子どもたちから多くの意見を得ることができた。このことから、絵本を用いることで子どもたちにより分かりやすく、また楽しみながら都市計画やまちづくりについて学ぶことができたといえる。
今後の展望	今回制作した子ども向けまちづくり学習教材は、小学校の教諭や子どもまちづくりに興味のある人、また子どもまちづくりの活動を始めようとする人がまちづくり教育の活動を実施する上で手助けになることが期待できる。今後は、今回制作した絵本をより普遍的なまちづくり学習教材に作り直し、子どもまちづくりの先進都市「空堀」となるよう目指していきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

直木三十五記念館

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

双方向に開かれた市民ミュージアムの可能性について

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	実施計画のスケジュール検討
8月	プリンセストヨトミ挿絵原画展の検討
9月	図録のための収録物の撮影
10月	プリンセストヨトミ挿絵原画展の開催
11月	関西文化の日での施設開放の実施
12月	図録製作・編集
1月	図録製作・編集
2月	鎌倉文学館等の視察 図録完成。完成報告会の実施

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	外部機関からの借入れをし企画展示を実施することで記念館の魅力向上につながった。また展示物の図録を作成することで多くの方々に記念館を理解していただけた。
今後の展望	図録集を活用し、開かれた記念館として上町台地から全国に情報発信をしていきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 23 年 3 月 9 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

北大江地区まちづくり実行委員会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

北大江・工房公開のまちのプロモーション

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	
8月	
9月	・工房公開等実施地区の視察・交流等によるプロモーション方針を検討 ・工房公開等をビジュアルにアピールするシンボル・サインの募集
10月	・デザイン提案の審査・選定 ・選定されたデザインによるサイン等の試作 ・秋の音楽イベントとタイアップした工房開放の実施 ・試作サイン等を活用した工房公開等のビジュアルなアピール
11月	
12月	
1月	（イベントとタイアップするサインの活用）
2月	・工房公開実施の評価・検証と恒例化の検討及び工房公開のまちとしてイメージ定着の企画 ・継続使用サインの製作

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	・これまで個別の企画として行われていた工房公開（オープンハウス）を、音楽イベントに合わせた一連の行事として行なうことにより、来訪者の幅が広がるとともに、まちを知る楽しみが増えるとともに、工房公開に協力する事業者の相互理解や協働する意識も深まった。
今後の展望	・秋の音楽イベントにあわせた工房公開を継続するとともに、地区内外における集客イベントやまちめぐりツアーとのタイアップ、他の地域公開型の事業とのタイアップなどを推進する方針。 ・今年度事業の成果としてのサインデザインは、まちを開き上町台地及び北大江地区の魅力をアピールする際に大いに活用していく。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

應典院寺町倶楽部

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

生老病死のまちづくり～上町台地グリーフサポート・モデルの創造

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	夏のエンディングセミナー「遺族をどう支えるか」において、9月の催しの広報（179名）
8月	詩の学校特別編「それから」開催（8/4）、総合芸術文化祭企画会議（8/5）開始（合計20名規模）
9月	シンポジウム「＜葬式仏教＞再生論!」開催（9/20）（125名）
10月	映画「地球交響曲第1番・第7番」上映と共生をテーマとしたトーク開催（10/10）（67名）
11月	在宅医療等をテーマとしたシンポジウム「地域でつなぐ、いのちの絆」開催（11/23）（49名）
12月	
1月	総合芸術文化祭「コモンズフェスタ 2010/2011～on と off のスイッチ」実施（1/13～21）開催（2150名規模）
2月	「コモンズフェスタ」関連プログラム、イラスト展「ひとつだけ」開催（2/22～3/8）（230名規模）

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	全体を通じた参加者は、およそ2820名であった。数値目標を定めなかったが、人数面では、一定の成果を得た。ただ、数字以上に、複数の催しにリピーターとして参加し、「今までにない感覚」「刺激があり、自分の中で何か変化が起きた」など、本テーマへの好意的な評価が多数得られたことは、本テーマを設定し、事業を展開してきたことへの大きな成果であると認識している。
今後の展望	昨年は「無縁社会」と叫ばれ、さらには葬送儀礼における金銭感覚が激しく問われるなど、＜いのち＞にまつわる世論が高まった。都心居住の魅力が盛んに訴えかけられる上町台地は、他地域に比べて、いかにして死を迎えるかを支えていく仕組みを強固なものとしていかなければならないだろう。故に、多様な場を通じて、人々が自らの死生観を語ることのできる場作づくりに取り組みたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 22年 2月 23 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

あいぬ・谷町江戸店

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

いのちめぐり（持続可能な循環型社会を目指す、エココミュニティマーケット）

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	
8月	
9月	
10月	スタンパラリー
11月	6日（土）おもてなしのちほめぐりin高津宮
12月	
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	スタンパラリーをある事により、このエリアで、こだわりのお店などが かお互繋を持つことができ、一般の方々もこのようなお店が あることを知り、上町台地をエコの住みやすい町であることを再 認識することができました。
今後の 展 望	もっと多くのエコでこだわりの店や消費者が、つながり 環境に関心のある意識の高い町として知っていただくよう 活動していきたいと思っています。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これら
を補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

上町台地マイルドH O P Eゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

からほり倶楽部(空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト)

共同事業者名 (あれば記入してください)

ロジモク研究会、CEL/上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo)

2 事業のテーマ・タイトル

ロジモク減災～路地と長屋のまち「空堀」から減災をめざす第3章

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
5～6月	随時：からほり倶楽部内部や協働先の CEL/U-CoRo プロジェクト・ワーキングとの平成 22 年度事業の検討。 6 月 29 日：U-CoRo 展示取材を兼ねて、天王寺区役所で開催された五条小学校避難所開設訓練に向けたワークショップに参加。
7 月	7 日：五条小学校避難所開設訓練に向けた同小学校事前見学会に参加 上旬：まちづくり提案助成応募に向けて、今年度事業案の確立を図る。 16 日：U-CoRo 展示取材を兼ねて、東中川小学校(生野区)で実施された避難所開設訓練の関係者取材。地域とのつながりづくりなどのアドバイスを得る。 22 日：大阪市立南高校訪問(避難所としての学校見学の依頼と事前見学) 30 日：北大江まちづくり協議会主催の避難所見学会に参加し、府立大手前高校を訪問。
8 月	2 日：桃園連合振興町会の浦野会長と面談。ロジモク減災勉強会と町会事業との連携・協働方法について協議。 9 日：桃園連合振興町会の浦野会長とともに、大阪市立南高校の避難所見学を実施。 13 日：まちづくり提案助成対象事業に選定
9 月	6 日：五条連合の地域防災リーダーや天王寺区役所職員とともに、五条小学校での避難所見学を実施。避難所見学会や開設訓練などに関する意見・情報交換を行う。 13 日：からほり倶楽部の取材協力を行った、U-CoRo での第 12 回ウィンドウ・エキジビション「上町台地 もしも・いつもの“避難所”ウォッチング」スタート。
10 月	12 日：大阪府社会福祉協議会から、同協議会が立地する空堀地域との防災事業での連携・協働に関する打診を受け、協議を行う。
11 月	9 日：企業や社協などから構成されるリンクアップ・フォーラムの勉強会で、U-CoRo とロジモク減災勉強会の活動を紹介し、空堀界隈での防災取り組みをまち歩きで案内。 14 日：昨年度に引き続き、桃園連合振興町会での防災訓練にからほり倶楽部として参画。町会の協力を得て、ロジモク減災勉強会の一環として「防災訓練見学会」を実施し、地域外からの参加者も募る。 21 日：五条小学校での避難所開設訓練に参画。地元町会や区役所の協力を得て、ロジモク減災勉強会の一環として「避難所開設訓練見学会」を実施し、地域外からの参加者も受け入れてもらう。

12 月	3 日：大阪府社会福祉協議会主催の府下社協職員とボランティア向けまち歩き(地域防災)を受け入れ。 6 日：からほり倶楽部理事会にてロジモク減災勉強会報告会開催。
1 月	18 日：企画立案や開催準備に協力した、U-CoRo フォーラム「減災トーク・セッション～あなたのそばの避難所」開催。桃園連合振興町会の浦野会長もパネリストとして参加。 25 日：ロジモク減災勉強会第 1 回(通算第 5 回)をサロン de ありす(「練」2 階にて開催。参加者 13 名。
2 月	12 日：ロジモク減災勉強会第 2 回(通算第 6 回)をサロン de ありすにて開催。参加者 14 名。 27 日：ロジモク減災勉強会現地見学会(通算第 4 回)開催。直木三十五記念館でのミニ・レクチャー後、長堀橋～堺筋本町～北浜～南森町でのまち歩きを実施。参加者 16 名。 事業終了後、関係者による振り返り会を実施し、これまでの振り返りと今後の進め方について意見交換を行う。

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	◆ 効果 【地元連合振興町会とのつながりの基盤確立】 ロジモク減災では、立ち上げ期 3 年間での地元地域との防災・減災面でのつながりづくりを目指してきた。2 年目の一昨年秋に初めて開催された桃園連合地域での防災訓練で、からほり倶楽部として参加の誘いをいただき、つながりの糸口を得ることが出来た。 3 年目では U-CoRo の展示とも連携・協力しながら、地元地域との一層のつながりを図り、昨夏の大阪市立南高校への避難所見学会を実施した。昨秋開催された防災訓練では、ロジモク減災勉強会としての「防災訓練見学会」を快く受け入れていただくなど、連携・協働への実績づくりも積み重ねはじめることが出来た。 また、ロジモク減災勉強会では桃園連合振興町会の会長もゲストでお招きし、これまで築いたネットワークのなかの実践者や研究者とも出会う機会をつくるなど、地元地域での広範な防災・減災つながりの拡充に向けた基盤を確立することが出来た。 【防災・減災活動の実践者や研究者とのネットワークの一層の確立】 ロジモク減災勉強会や U-CoRo 展示への協力などを通じて、3 年目でも防災・減災活動の各地の実践者や研究者との新たな出会いや出会いの積み重ねを得ることが出来、ネットワークの一層の確立を図ることが出来た。 これまでの現地見学会訪問先との関係強化では、神戸市長田区の野田北部まちづくり協議会と京都市東山区の祇園町南側地区まちづくり協議会を空堀地域へお招きし、こちらの街並みや防災・減災活動の現状などを見ていただくことで、当方への関心や理解を高めることが出来た。 また、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターとの協力関係構築に尽力いただいてきた研究者の移籍に併せ、関西大学社会安全学部との関係づくりに向けた一歩も踏み出すことが出来た。 神戸長田や京都祇園への再訪プランや京都大学防災研究所の見学会など新たな事業展開も、勉強会を通じて打診・提案しあえるなど、実
-----	--

実践的なつながりへの昇華も図れた。

【ロジモク減災や空堀での防災活動への認知度や関心の醸成】

ロジモク減災や空堀での防災活動への認知度や関心が、地域内外で高まってきた。その背景には U-CoRo や大阪大学 C S C D などとの協働、勉強会や見学会などを通じて得た実践者や研究者などとのつながりが元になっているところが多い。これまでの協働やつながりから生まれたロジモク減災への理解や信頼が、クチコミなどでの活動の情報の伝搬につながっているようである。

空堀に立地する大阪府社会福祉協議会との関係づくりもはじまったが、ロジモク減災への協力だけでなく、相互メリットの追求や双方向のつながりづくりを企図することで、次のステップへの歩みも、遅くはあれども着実に踏み出すことが出来た。

◆ 課題

【地域住民一人ひとりへの浸透の不十分】

地元の連合振興町会などとの、つながりの基盤は築けてきたが、地域住民一人ひとりへのロジモク減災の認知や防災・減災への関心の醸成など、浸透はまだまだ不十分である。

今後予定されている地元地域主催の防災訓練や避難所見学会などに、引き続き協力するなどしながら、今後も地道な浸透を図っていく必要がある。

【防災・減災への日常的な啓発手法の未獲得】

ロジモク減災や空堀での防災活動への認知度や関心は上がってきた者の、それらを一括したウェブサイトの立ち上げや、紙媒体やEメールなどによる定期通信の発信、パンフレットの作成など、日常的な啓発手法が未獲得ままである。

勉強会や現地見学会の開催など、何か取り組んでいるとき以外の時間に、ロジモク減災の紹介や防災・減災の智慧の波及など、より多くの人たちに伝達する手法を得ていくことも今後重要である。

【からほり倶楽部の世代交代に併せた事業継承の不明瞭】

からほり倶楽部では今秋に理事の世代交代を予定している。世代交代では単なる理念や事業の継承は図らない方針であるため、今後のロジモク減災の事業継承は、からほり倶楽部内では不明瞭である。

これまで築いてきたネットワークや培ってきた知識・情報、そして地元地域とのつながりを、からほり倶楽部内外でどうつないでいけることができるか、来年度の大きな課題である。

今後の 展 望	【地元ニーズや課題のくみ取りとそれらに対応するサポートの提供】 地元地域との一層のつながりづくりや連携・協働の拡充に向けて、地元ニーズの把握や抱えている課題の掘り起こしを丁寧に進め、それらニーズに応え、課題解決の一助となるサポートを考え、実行していくことが大切である。 地元ニーズの把握や課題の掘り起こしには、ヒアリングやアンケートといった従来型の手法もあるが、これまでに築いてきたつながりのなかで、日常の対話を通じたニーズの把握や課題の掘り起こしが、より核心的なニーズや課題に近づける場合が多い。
今後の 展 望	小さな事業連携を通じた打ち合わせや意見交換などの機会、それら機会の日程調整などを通じた出会いの場を活かし、きめ細かなニーズや課題の把握への試みを進めていく。 【防災・減災関連のネットワークと知識・情報の持続拡充】 この3年間で形成した防災・減災関連のネットワークは、現場で多様な人たちと向き合い、良質なネットワークを駆使しながら地道に活動を続ける実践者や研究者を中心に、構築できてきた。また、そうした実践者や研究者などには、空堀商店街界隈やそこでの減災の取り組みに興味や関心を持ってもらえることも多い。 さらに、そうした実践者や研究者を通じて得られてきた基礎知識や基本情報は、空堀の実情にも適合し、今後の活動に活かせるものも多い。 そうしたネットワークと知識・情報を、減退させることなく継承し、より拡充させていく取り組みを図っていくことが肝要である。今後は、今までであった実践者や研究者とのつながりも持続させながら、さらなる出会いの機会を設けながら、ネットワークとそれを通じた知識・情報の拡充に努めていく。 【からほり倶楽部内外での減災活動の継承】 からほり倶楽部では今秋世代交代を予定しているが、からほり倶楽部内でのロジモク減災の活動も、その継続是非は新世代に委ねられることになる。 ロジモク減災の理念や目的、戦略をより確実に継承・発展させていくためには、からほり倶楽部の枠を超えた減災活動の場の構築も必要になってくると考えられる。 これまでの活動での協働・協力先の組織や人材とも連携しながら、新たな活動の場の構築を模索し、からほり倶楽部内でのロジモク減災の取り組みが継続・発展していく場合には、ネットワークや知識・情報の共有を図りながら、ともに地域の防災力向上に取り組んでいく環境を形成していく。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 23 年 2 月 24 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

NPO法人 大阪ワッソ文化交流協会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

四天王寺ワッソアカデミー

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	
8月	
9月	四天王寺ワッソアカデミー 練習開始 上町台地ガイドス 四天王寺ワッソ 広報開始
10月	事前準備学習会・打合せミーティング
11月	リハーサル 11月7日 四天王寺ワッソ開催日
12月	
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	・古代の国際交流を再現することで、現代社会における交流のあり方を再認識することを目的とする四天王寺ワッソやその練習過程への参加を通して、古代の大阪が上町台地を中心に発展し国際交流の原点であったことをシンプルに分かりやすく伝達できた。 ・上町台地に在る学校で学ぶ高校生や学校関係者が多く参加し、在日外国人、留学生との国際的な交流が生まれたことで学校以外での人的交流を体験することができた。 ・事業に参加した外国人は、自国の歴史を日本で体感することができた。 ・なにわの宮跡が歴史的に重要な拠点であることを大阪市民が知るきっかけを作り、上町台地における歴史遺産としての価値観、及び文化発信力の向上に寄与することができた。
-----	---

今後の
展 望

- ・四天王寺ワッソの中心は、未来を担う青少年であり、彼らの育成と動議付けが行われる場として、この事業による人的交流が継続されることで、将来大きな文化力として成長することが期待できる。
- ・四天王寺ワッソアカデミー経験者を練習や企画面での講師として育成し、市民ボランティアによる運営を目指す。
- ・四天王寺ワッソアカデミーを継続させることは、未来を担う若者が上町台地の歴史や文化の伝承者として育成されていくという意義がある

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 23 年 3 月 9 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

自転車文化タウンづくりの会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

上町台地で自転車文化を育むまちづくり
～自転車まち巡りツアー＆自転車を活かしたまちづくり交流シンポジウム～
※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7月	7/1：まちなか自転車空間コンクール審査結果発表 7/4：初夏の涼風サイクリングツアー（阿倍野、昭和町、帝塚山界隈）実施
8月	8/16 ガーデンサイクリングツアー下見
9月	9/4 「ガーデンサイクリングツアー」を開催（参加者 18 名）
10月	10/3 「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」を開催（参加者 50 名） 10/30 上町台地サイクリング MAP 試走①
11月	11/30 上町台地サイクリング MAP 打合せ
12月	12/8 自転車文化タウンづくりの会幹事会
1月	1/15,16 上町台地サイクリング MAP 試走② 1/23 「自転車まちづくり交流イベント 2011」を開催（参加者 63 名） 1/30 「上町台地おいしいところりツアー」を開催（参加者 10 名）
2月	2/10 上町台地サイクリング MAP 打合せ 上町台地サイクリングマップ印刷・配布

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	サイクリングツアーは、上町台地の様々な魅力をコンパクトに堪能する事ができました。また、交流イベントでは多くの方に参加いただき、自転車の魅力の発信、現状の課題・利用のあり方について共有できました。
今後の展望	今回の事業を通じて、上町台地での自転車利用の課題と可能性が明らかになりました。今回作成した上町台地自転車 MAP の配布やツアーを今後も実施するとともに、情報発信や意見交換の場づくりなど、上町台地における自転車を活かしたまちづくりに今後も取り組んで行きたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 23 年 2 月 17 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

NPO 法人 天王寺 21 協議会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

第2回「大阪 心の百景」ぼんぼり展

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
7 月	5月中旬よりチラシ、ポスター等で一般公募を開始。7月8日までに78点の応募があり、入選以上の60点を選びぼんぼり用のフィルムに加工。17日の高津宮参道を皮切りにスタート。
8 月	7.8は天王寺公園、慶沢園に会場を移して開催、11.12は生国魂神社で、ラストはギャラリーピネで14～27日までのロングラン展示を行った。今回は4会場ともに天候に恵まれ、多くの見物人で賑わいをみせた。
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	

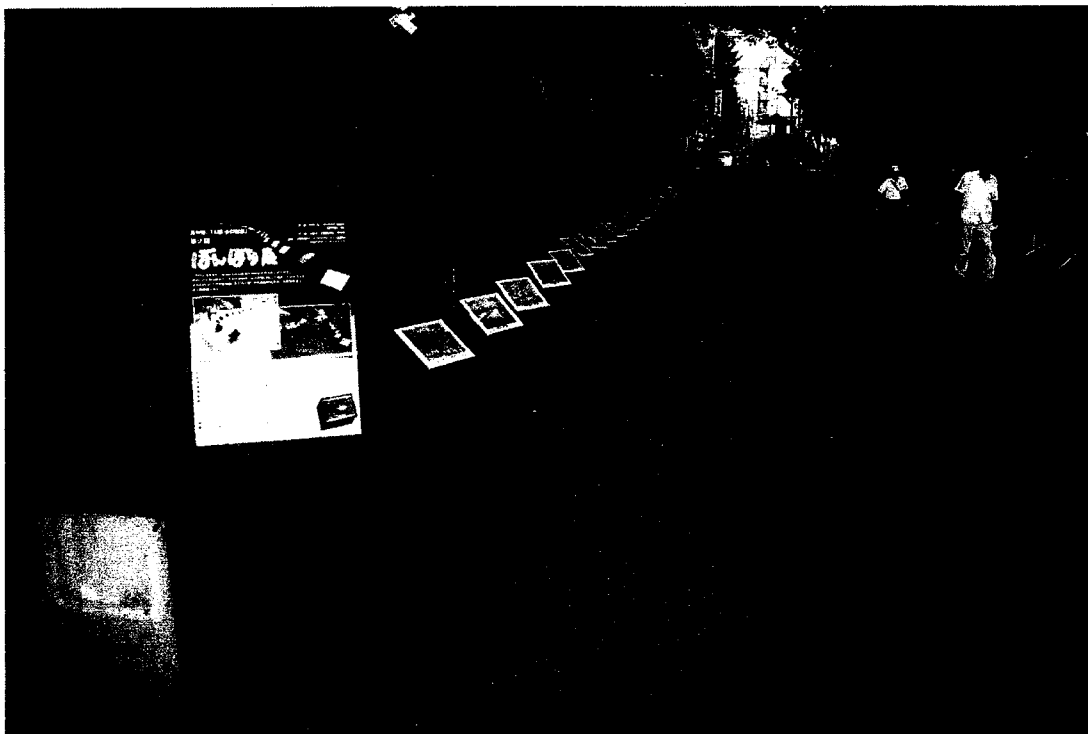
※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	都心の夏の宵に「大阪 心の百景」をテーマにぼんぼり展を開催。昨年の第一回展が予想以上の評判を博し、今回は会場を拡げて広く一般公募。 懐かしい大阪の風景、行事などをモチーフに描いて頂きぼんぼり(ボックス形)を作成、夏の夜のひとときを、人々の心の癒し・心の触れ合いの場として、都心の夏の宵に高津宮を皮切りに天王寺公園(慶沢園)・生国魂神社参道・ギャラリーピネを会場として開催。神社の夏祭りや薪能との相乗効果、また会期中は天候にも恵まれ多くの見物人でにぎわ
-----	---

	った。 5月中旬より印刷物(チラシ・ポスターを制作)一般公募及び大阪を描こう会会員に呼び掛けを行いスタート。作品締きりの7月8日までに78点の応募があり、入選以上の作品 60 点を選びぼんぼり用のフィルムに加工。 7月17日の初日、夏祭りの高津宮参道に 15:00 から準備に入り、明るいうちから多くの人が集まった。宵闇が迫るところからぼんぼりの絵が変化し、浮かび上がりあちこちで感嘆の声が上がり、空模様を気にしていた関係者もほっと一息。翌 18 日も会場は賑わいをみせた。 8月7・8日は天王寺公園 慶沢園へ会場を移しての展示、11日・12日は生國魂神社参道での展示となり薪能の祭事と相まって賑わいを見せた。いずれも天候に恵まれての催事として成果を挙げる事ができました。(会期中来場者 推定累計 6000～7000 名)
今後の 展 望	会場が(3会場)屋外のため前回にはわか雨にたたられた。 その反省もあり今回は最終会場にギャラリーピネを利用。幸い天候に恵まれたものの、照明用乾電池に消耗による光源ムラがあり、展示作品に明暗が出来、効果を損じた事があり、ギャラリーピネでの展示で AC 電源を使った結果が良好で、次回の光源対策に応用したい。 写真資料添付 □ぼんぼり BOX 仕様 400×320×h320mm (画面 400×320)額縁入り・絵画フィルム仕上げ 本体カラーボール合紙 組立方式 照明ランタン(単一電池 4 本)

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。



生國魂神社 参道

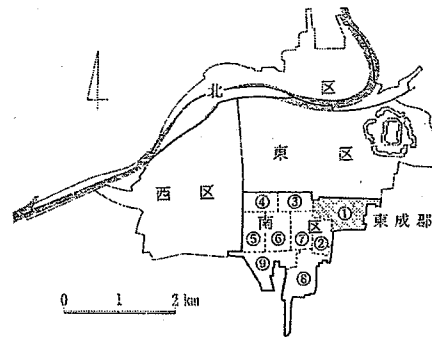
近代大阪における都市名望家と地域団体に関する社会史的研究（調査報告書・要約）

—桃園学区区会議員の記録から—

大阪市史料調査会 松岡弘之

はじめに

本研究は、都市名望家の地域活動の分析を通じて、上町台地の社会構造を解明するため、大阪市南区内安堂寺町2丁目（現中央区安堂寺町）に暮らし、借家業を営んだ井上平兵衛（初代・2代）の区会議員としての活動を検討する。具体的には、①学区編成まもないころ桃園学区（＝空堀町外13ヶ町）で問題となった1895年の桃園第一尋常小学校移転新築、②学区のありかたが見直されるなか、育英学区（＝長堀橋筋1丁目外91ヶ町、高等小学校設置負担区）で1923年（大正2）に竣工した育英女子高等小学校の増築という、井上親子が関わったふたつの教育負担のありようを地域の動向と関わらせて検討する。



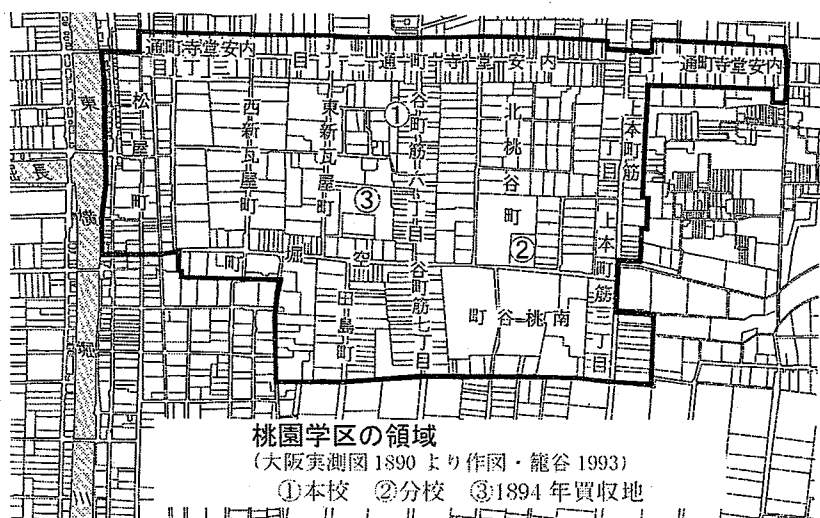
大阪市域と南区内の学区（明治26年）

- | | | |
|-----|-----|-----------|
| ①桃園 | ②金阪 | ③濯美 |
| ④芦池 | ⑤御津 | ⑥大宝 |
| ⑦道仁 | ⑧高津 | ⑨相生(のち精華) |

注 表示は尋常小学校負担区のみ。龍谷1993

1 編成期の学区 —桃園第一尋常小学校の移転新築問題—ii

1872年の学制実施により、のちに桃園学区となる地域には南大組第3区小学校（のち万年小学校）と、南大組第1区小学校（のち桃谷小学校）という二つの小学校が設立され、1890年の財産区として学区が成立するまで、行政区画と学校設置区域とは長く一致しなかった。1891年11月、市費による桃園小学校の移転立替を市会議員KRや14ヶ町家持中が南区長に要望するものの、区長は「聯合区会」の議決でなければ受け付けないとしてこれを拒絶した。ここに、地域は自らの要求を正当化すべく桃園学区の「区会」開設がされることとなった。だが、区会の結成は地域の政治的活性化を促進し、学校建設という大きな負担のありかたをめぐる、学区内は校舎の移転新築か修復による現状維持かをめぐって対立し、問題の長期化により1893年9月の時点で桃園学区は南区内で唯一不就学率が5割を超していた。南区長が校舎移転構想を打ちだし、用地取得が進められたが、町外の企業が所有していた候補地には町内居住者の経営する地上物件が存在するなどして買収価格は高騰せざるをえなかった。これらの用地買収・新校舎建築費用捻出のため学区の学区の財政規模は一気に膨張したばかりか、区費の事業割は2倍、家屋割は3.8倍へと桃園学



桃園学区の領域

（大阪実測図1890より作図・龍谷1993）

- ①本校 ②分校 ③1894年買収地

区民の負担は急上昇し、教育制度の全市的統一を望む声が出されていた。

桃園学区所属町の行政区画変遷

町名(1872年)	旧校	1873	1875	1876	1879	1881	1884	区議数	学務委員	西部
松屋町	万年		2-3	2-1	1	1	1	1*		○
田島町	万年		2-3	2-2	1	2	1	2		○
空堀町	万年		2-3	2-1	1	1	1	1		○
南桃谷町	桃谷	1	2-1	2-1	1	1	1	1		
北桃谷町	桃谷	1	2-1	2-1	1	1	1	2	区議	
上本町筋2丁目	桃谷	1	2-1	2-1	1	1	1	1		
上本町筋3丁目	桃谷	1	2-1	2-1	1	1	1	1		
内安堂寺町通1丁目	桃谷	1	2-1	2-1	9	1	1	1		
内安堂寺町通2丁目	桃谷	1	2-1	2-1	1	1	1	1	区議	○
内安堂寺町通3丁目	桃谷	1	2-1	2-1	1	1	1	1	公民	○
東新瓦屋町	万年	2	2-2	2-1	1	1	1	1		○
西新瓦屋町	万年	2	2-2	2-1	1	1	1	1		○
谷町筋6丁目	万年		2-3	2-1	1	1	1	1		
谷町筋7丁目	万年		2-3	2-2	2	2	1	1		○

凡例:〈町名〉1872年に定められた町の名称。〈旧校〉1882年以前の小学校名。〈1873〉1は1区の意。〈1875・1876〉2-3は2大区3小区の意。〈1879〉は第1分画の意。〈1881〉1は第1聯合の意。〈1884〉1は第1戸長役場の意。〈区会議員〉全16名の出身町、*は議長KR。〈学務委員〉学務委員の出身町。区議枠2・公民枠2・小学校長1の4名からなる。〈西部地区〉西部地区での議員集会に参加した町。典拠:『南区志』1928

2 大正後期の学区 ―育英女子高等小学校の拡張問題―

1918年(大正7)1月、井上平兵衛(2代、1869-1945)は高等小学校設置区である育英学区の区会議員に当選したが、同年7月市会で学制統一問題が上程されたことを契機として、育英女子高等小学校拡張が進められることとなったⁱⁱⁱ。比較的裕福な育英学区にとって、制度統一で学区保有財産が奪われることは受け入れがたく、学区間の負担能力の格差は市の補助金で補正されるべきとした。ここに高等小学校拡張は学区の財産防衛と教育拡充という二つの実を得るための手段となったのである。拡張用地は所有者が「公共ノタメ」と買収に応じるものの、借家人の立ち退きなどにより合意にいたらなかった6ヶ月間にインフレが急速に進行したことで、区会は無償提供地を増やすこととなった。第一次大戦期の物価騰貴がよく示される。

さらに、1920年12月、教員給与を市が支弁するという改革案が市会委員会に提出されると、育英学区では「学制統一ヲ準備スルモノニシテ階級破解之前提」と反対意見書が準備されるものの、井上が居住する桃園学区では同案が賛成される。育英学区内で桃園学区は零細であって、市が責任を有する統一的制度のもとでの学校運営が期待されていたのである。ここに井上は、桃園学区内から擁立された自らの立場と、育英学区全体の立場の板挟みとなり、当初は桃園学区の立場に立とうとするものの、育英学区の方針に同調していかざるをえなかった。一方、こうした改革案の上程に育英学区は高等小学校を木造から鉄筋コンクリート設計に改めた。かくして、育英女子高等小学校は「実に大阪市小学校中に於ける最も進歩せる設備を有する鉄筋校舎の嚆矢として範を示した」^{iv}と評される建築として1923年12月の落成式を迎えた。このように、育英学区では学区制度の見直しが校舎改築やその内容の充実を後押しするものの、南区内でも個々の小学校設置学区との格差が存在し、校舎拡張問題における井上の板挟みはその苦悩を象徴していたといえよう。

むすびに

以上の明治期・大正後期それぞれの時期に学区内で問題となった学校建設を地域形成のありかたから整理してまとめにかえたい。明治期の学区の制度化は、財産負担区としてのバランスシートの拡大をもたらしたことで地域統合を推し進める重要な役割を果たした。だが、次第に高度化する教育要求・水準がやがて学区間の教育格差として顕在化し、負担に耐えがたい学区からの広域化や市への一元化要求として学区制度を内側から掘り崩し、ついに 1927 年に学区制度は廃止されていく。本研究はそうした地域形成と変容の動態を井上の記録から具体的に示しえた点に成果があるが、特に井上の場合、桃園・育英学区双方の立場に配慮せざるをえない困難を抱えた点に特徴があろう。今後、未整理文書の調査を進め、その意義をさらに掘り下げていくことが必要であろう。

i 井上平兵衛の借家経営者としてのありかたは、深田智恵子・松岡弘之「近代大阪の借家に関する住居史的・都市社会史的研究」(『住宅総合研究財団研究論文集』36 号、2009 年 3 月)などを参照のこと。井上の暮らした桃園学区の財政分析は籠谷次郎「大阪市における学区財政の展開」(『大阪の歴史』38 号、1993 年)を参照のこと。なお、籠谷が活用した南区役所文書は現在大阪市公文書館に移管されている。

ii 本問題の詳細は、拙稿「学区編成期の地域社会—大阪市南区・桃園尋常小学校の移転新築問題—」(『住まいのミュージアム館報・年報』8 号、2010 年 9 月)を参照のこと。

iii 以下の記事は「南区会事務控」第 1~4 号(井上平兵衛家文書 60-211~214)による。

iv 長堀橋筋 1 丁目外 91 ヶ町区編『南区志』南区役所、1928、204 頁。

平成 22 年度上町台地マイルドHOPEゾーン協議会調査研究選定事業 報告書<概要>

若者の上町台地に対するイメージ調査

2011 年 3 月 9 日

大阪市立大学都市研究プラザ 佐藤由美

I 調査の概要：大阪・暮らしのイメージに関する調査<概要>

■調査の目的：

学生が上町台地を歩いて体験・体感したままの姿をブログで全国に発信し、それに対する全国の同世代（学生）の反応を把握する。その反応から、大阪の隠れた“魅力要素”を明らかにし、今後のまちづくりに活かすことを目的とする。

■調査の方法

【対象者】全国（近畿圏を除く）の 15 大学の大学生・大学院生

【調査方法】アンケート調査（マークシート方式）

・同じ学生に 2 回実施（第 1 回調査：2010 年 11 月、第 2 回調査：同年 12 月）

【調査回答者】 合計（15 大学：第 1 回調査 515 人回答・第 2 回調査 463 人回答）

九州地方（1 大学：25 人・25 人） 中国地方（2 大学：76 人・68 人）、
四国地方（2 大学：76 人・62 人） 中部地方（3 大学：93 人・83 人）
関東地方（2 大学：94 人・85 人） 東北地方（4 大学：117 人・104 人）
北海道地方（1 大学：34 人・36 人）

II 調査の結果

1. 第 1 回調査の結果

(1) 大阪との関係

第 1 回調査回答者の大阪との関係をみると、旅行等の「訪問経験がある」が最も多く、75.5%に上っている。ついで、親戚や友人等の「知人がある」54.0%となっている。

(2) 大阪に関する知識と上町台地

大阪・上町台地とゆかりのある地名や人名の認知度をみると、「大阪城」や「豊臣秀吉」は 9 割を超え、ついで「聖徳太子」や「近松門左衛門」等、歴史上の人物名の認知度が高い。

一方、「上町台地」は居住歴のある人にも、15.0%しか知られていない。

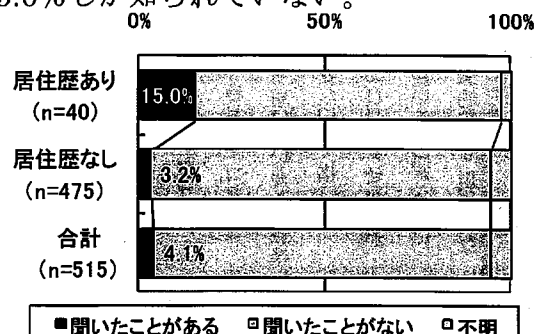


図 4 居住歴の有無別上町台地の認知状況

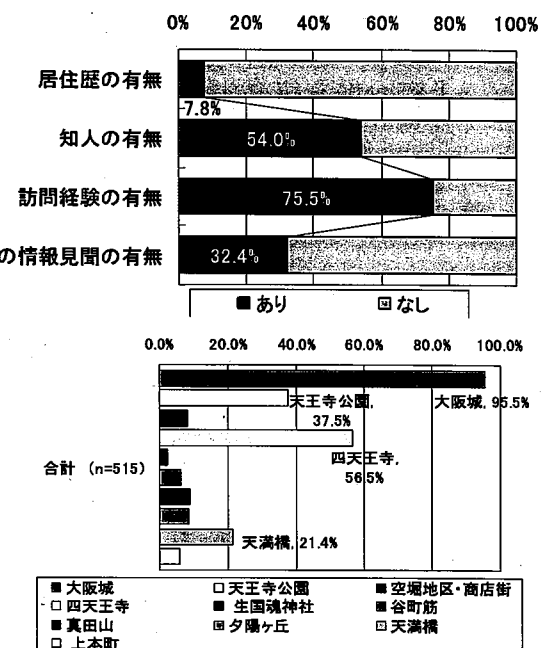


図 1 調査回答学生の大阪との関係(第 1 回調査) (n=515)

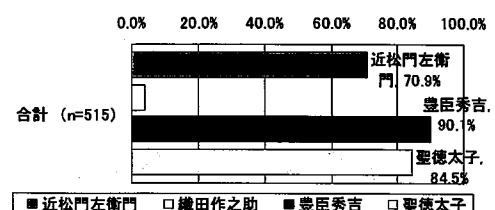


図 3 知っている人名(第 1 回調査) (n=515)

2. 第2回調査の結果

上町台地を紹介するブログ（2種類）の閲覧状況をみると、「おおむね見た」が25.5%のn=118を占めている。

これらの人のブログの中で印象に残った事柄は、「神社や寺」、「長屋や路地」、「昔ながらの街並み」等、歴史的な環境・建築物が多く挙げられている。

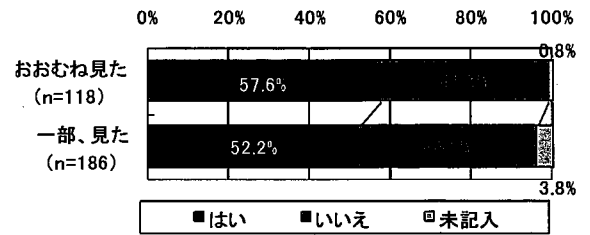


図5 大阪イメージの変化【ブログ閲覧者】
(n=463)

表1 印象に残ったこと【ブログ閲覧者】(n=304)

印象に残ったこと【ブログ閲覧者】	1:賑やかな街並み	2:近代的な街並み	3:昔ながらの街並み	4:落ち着いた街並み	5:城や遺跡	6:神社や寺	7:商店街や繁華街	8:長屋や路地	9:マンション等の集合住宅	10:道路や坂道	11:動物や植物	12:居住者や来街者	13:イベント	14:その他	平均
おおむね見た (n=118)	9.3%	13.6%	43.2%	38.1%	34.7%	60.2%	18.6%	44.1%	7.6%	13.6%	11.9%	1.7%	6.8%	6.8%	3.10
一部、見た (n=186)	21.0%	10.8%	45.2%	31.7%	32.3%	37.1%	23.1%	14.0%	4.8%	12.9%	9.1%	3.2%	6.5%	0.5%	2.52

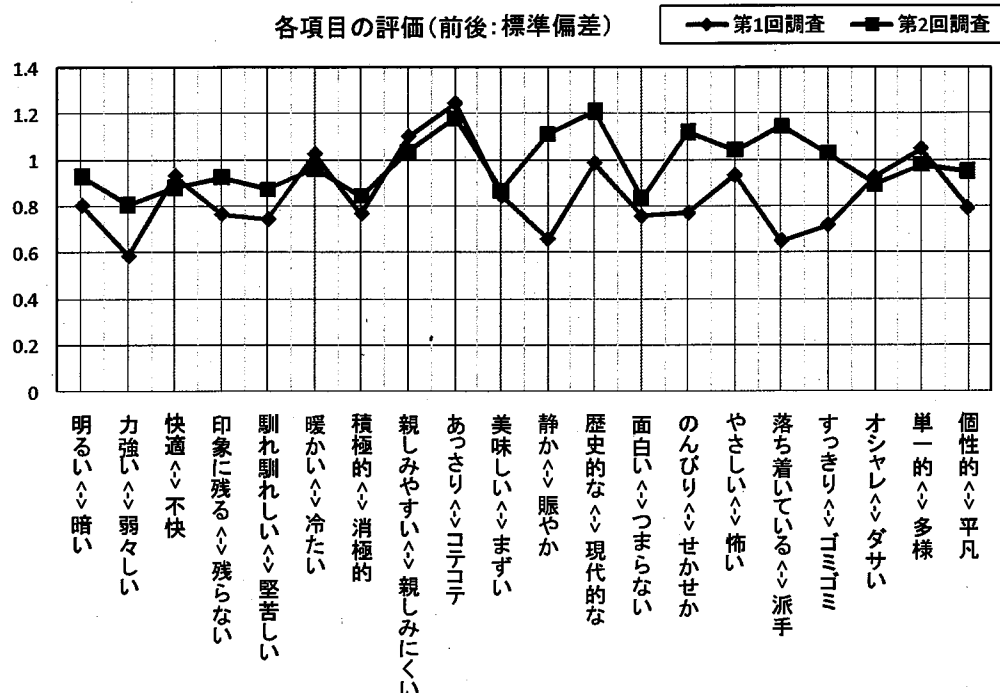
また、行ってみたいと思ったところについてみると、閲覧状況に関わらず、「大阪城」が1位となり、5割以上が回答している。ついで「天王寺公園」「四天王寺」の順である。

表2 行ってみたいと思ったところ【ブログ閲覧者】(n=304)

行ってみたいところ【ブログ閲覧者】	1:大阪城	2:天王寺公園	3:空堀地区・商店街	4:四天王寺	5:生国魂神社	6:谷町筋	7:真田山	8:夕陽ヶ丘	9:天満橋	10:上本町	11:その他	平均
おおむね見た (n=118)	52.5%	27.1%	20.3%	19.5%	9.3%	1.7%	16.1%	5.1%	6.8%	6.8%	7.6%	1.73
一部、見た (n=186)	33.8%	33.3%	10.8%	23.7%	7.0%	2.2%	5.9%	7.5%	10.8%	3.2%	3.8%	1.62

3. 大阪に対するイメージの変化（第1回調査・第2回調査）

上町台地を紹介するブログの閲覧状況別に大阪イメージの変化を形容詞対でみると、「賑やか」が減少し、「静か」が増加、「せかせか」が減少し、「のんびり」が増加、「派手」が減少し、「落ち着いた」が増加、「ゴミゴミ」が減少し、「すっきり」が増加等、偏った大阪イメージが緩和されている。



Ⅲ まとめ

近畿圏以外の大学の若者の大阪との関係は強く、特に大阪を訪問したことのある若者は75.5%、知人がいる若者は54.0%、日頃大阪の情報を見聞している学生も32.4%と多い。

しかし、こうした関係とは関係なく、大阪に対するイメージは一定の方向に偏っている。上町台地についてみると、「上町台地」そのものの地名としての認知度は低い、上町台地にある「大阪城」や「四天王寺」等の認知度は高い。また、地名よりも上町台地にゆかりのある人名の方が認知度が高い。

特に、ブログ閲覧により強く印象に残っているのは、「神社や寺」、「長屋や路地」、「昔ながらの街並み」等であり、行ってみたい場所には「大阪城」「天王寺公園」「空堀地区・商店街」等が挙がっている。また、「落ち着いた街並み」、「神社や寺」は、「訪問歴なし」「居住歴なし」の人たちにとっても印象深い要素となっており、初めて大阪を訪れる若者にも興味を持ってもらえるスポットとなりうるものと思われる。コテコテイメージの大阪にあって、「歴史がある」「落ち着いた街並み」という要素は、新鮮な感覚で受け入れられる可能性を秘めているのではないだろうか。

さらに、一部の若者が感じとっているが、古いだけではなく、現代的なデザイン等と融合させ、隠れた「おもしろさ」を発見してもらうような仕掛けも新たな魅力を発信する効果的であると考えられる。

一方、「住んでもいいまち」、「歩いてみたいまち」のような若者の評価も、今後のまちづくりの参考になるものと思われる。

<参考>大阪のイメージ変化の内容例：自由記入回答のあった157コメントより抜粋

■歴史のあるまち

- 自分が思っていた以上に神社や寺、長屋や路地が多かった。大阪にいったらUSJや商店街をまわりたい、と思っていたが、神社や長屋も見てみたいと思うようになった。(九州地方・女性)
- 大阪は食べ物、大阪城、道頓堀というイメージが大きかったが、古くからある昔の建物やお寺が多く、昔あった出来事や昔の建物が今と何らかの形で繋がっていることが感じられました。(九州地方・女性)

■落ち着いたまち

- もっとおばさんがトラ柄の服を着たり、がやがやしたりしていると思っていた。でも意外に普通で昔ながらの感じだったのでびっくりした。大阪にもこんな場所があるという発見になった。(関東地方・女性)
- 思っていたよりも、やさしい雰囲気があると感じた。(中国地方・女性)
- 「コテコテしている」とか、明るく良くも悪くもうるさいイメージがありましたが、ゆっくり静かに歩けそうな姿を知り、落ち着いたイメージを少し持ちました。(東北地方・男性)
- もっとゴミゴミしている街かと思っていたが、静かで落ち着いた街並みもあった。大阪弁の強い口調のイメージがあったが、そうでもないように思えた。(北海道・女性)

■おもしろいまち

- 細かい所までデザインを考えているのだと思った。落ち着いた街並みだけでなく、おもしろく作っていると思った。(中国地方・女性)
- 多色でごちゃごちゃとしたにぎやかなイメージが強かった。でも京都のイメージだった長屋を再利用するなど、モダンスタイルとクラシックスタイルの融合している一面を見ることができた。(東北地方・女性)

■その他

- 自然が結構残っている場所があるんだなと思った。大阪にはあまり住みたくないと思っていたけど、住むことはできるなと思った。(中部地方・男性)
- 大阪は、もともと好きでしたが、ますます好きになりました。少々人がいかついイメージがありましたが、それがなくなったと思います。(北海道・男性)

